



新年のご挨拶

令和5年1月

在エチオピア日本国特命全権大使

伊藤 恭子

新年明けましておめでとうございます。2023年の年頭にあたり、日・エチオピア関係に関する昨年の成果と本年への期待を共有させていただきたいと思っております。

エチオピア北部の情勢に関しましては、昨年11月以降、敵対行為停止協定(CoHA)、ナイロビ宣言、監視・検証・遵守メカニズムのTORがまとめられ、エチオピアは紛争から平和・復興への正しい軌道に乗って来ているとみられます。我が国は、こうした進展を歓迎するとともに、これらの合意が誠実に履行されることを心から期待しています。

我が国は、人間の安全保障に着目し、エチオピアの平和と安定に向けた支援を継続してきています。例えば、昨年1月には、国際機関を通じてエチオピア北部などに対する2,600万ドルの人道支援を、また7月にはWFPを通じてソマリ州への330万ドルの緊急食料援助を提供しました。12月には、エチオピアの紛争・干ばつの影響を受けた地域に対し、国際機関を通じて約2,500万ドルの供与を決定しています。

さらに9月には、エチオピア保健省との協議を踏まえ、妊婦死亡率が高く、医療サービス普及率の低いエチオピア国内の5つの州の病院に対する、移動診療車両と医療機材の提供を発表しました。日本とエチオピアの現地NGOや地方自治体との実りある協力により、昨年完工し引き渡されたプロジェクトや、今年の実施に向けて現在進行中のプロジェクトの例としては、地域コミュニティでの学校校舎の増設、職業訓練センターの拡張及び小さな橋梁の提供などがあります。

今年開始されるエチオピアの国民対話プロセスが、真に包摂的で、透明性があるものとなり、その目標を達成することが強く望まれます。エチオピア国民対話委員会の活動を支援するため、日本は、エチオピア国民対話委員会の委員及びその他の参加者(国民対話の会場へのアクセスが困難な者)が移動手段を確保できるように、バス2台を供与いたします。



昨年8月に開催された第8回アフリカ開発会議(TICAD8)において、岸田文雄総理大臣は、アフリカの角担当特使の任命を発表しました。新任の清水信介同特使は、平和で安定したアフリカに向けたアフリカの取組を支援するために、私たちと協力していくこととなります。もちろんエチオピアは、そのために協力していく上で最も重要な国の一つです。

PKO分野における日本のエチオピアへの協力は、10年前から続いています。日本政府は、エチオピアのPKOセンター傘下の国際平和支援訓練所(IPSTI)への教育支援を継続しており、昨年は両国政府のPKO担当高官が相互訪問を行い、さらなるPKO協力について議論されました。



TICAD8は、特に、今後3年間で日本の官民による300億米ドルの対アフリカ資金投入が発表等を受け、日本の投資家によるアフリカでの新規事業開始への注目を集める機会にもなりました。ビジネスチャンスを求めてエチオピアを訪問する日系企業関係者の数は、過去2年間に比べて増加しています。日本の住友商事から27%の出資を受けているサファリコム・エチオピアは、昨年10月に正式にサービスを開始しました。この海外直接投資(FDI)の成功が好例となり、近い将来、エチオピアに対し、より多くの海外直接投資が行われることを願っています。

当館は、昨年5月に生け花ワークショップの開催、11月にバハルダール大学で日本の外交政策に関する公開講義の開講など、いくつかの広報イベントを実施しました。2021年にアディスアベバ大学でスタートしたJICAチェア・プログラムは、非西洋の国でありながら独自の伝統と文化を維持しつつ真に民主的で経済的な発展を遂げた日本の経験を共有するべく、昨年も2回の講義を開講しました。新型コロナウイルスのリスクが軽減された今、当館としては、日本食デモンストレーション、空手デモンストレーション及び日本映画祭など、さまざまな日本文化イベントを今年は開催していく予定です。更に、日本政府及び日本人有志による、エチオピア大統領宮殿内の日本庭園の修復も計画されています。より多くのエチオピア人が日本庭園の美しさを楽しむ機会が増えることを願っています。



昨年も、日・エチオピア関係に貢献頂いた方々に感謝の意を表す機会がありました。5月には、二国間関係の増進に尽力したアフェワク・カッス元科学・高等教育国務大臣に旭日重光章が授与されました。8月には、フレウ・テゲニエ・バハルダール大学学長が大学間連携に貢献されたことに対し、またエチオピア空手連盟が長年にわたってエチオピアにおける空手の振興に貢献したことに対し、それぞれ日本国外務大臣表彰の授与が発表されました。

2023年の干支は兎です。「うさぎ年」にはこれまでの努力が花開き、実を結ぶと言われています。本年がエチオピアにとっても、また皆様にとっても実り多い年になることを祈念申し上げます。